

### (3) 住宅の規模

専用住宅1住宅当たりの居住室数・居住室の畳数・延べ面積をみると、平成20年はそれぞれ3.38室、23.24畳、62.51㎡となっている。平成15年と比較すると、室数は0.07室減少、畳数は0.09畳増加、面積は0.03㎡減少している。

また、1人当たり居住室の畳数は0.45畳増加しているが、1室当たり人員は0.01人減少している。

昭和43年からの推移を見ると、専用住宅1住宅当たり居住室数は1.2倍に増加している。

平成20年の専用住宅1住宅当たり延べ面積をみると、東京は62.51㎡で、全国で最も住宅規模が狭くなっている。(表3、図3、付表1)

**表3 専用住宅1住宅当たり居住室数・居住室の畳数・延べ面積と1人当たり居住室の畳数及び1室当たり人員—東京都(昭和43年～平成20年)**

年次	専用住宅			1人当たり 居住室の畳数	1室当たり人員
	1住宅当たり 居住室数	1住宅当たり 居住室の畳数	1住宅当たり 延べ面積		
	(室)	(畳)	(㎡)	(畳)	(人)
昭和43年	2.77	14.84	43.84	4.45	1.21
昭和48年	3.00	16.46	47.43	5.47	1.01
昭和53年	3.25	18.48	50.66	6.46	0.88
昭和58年	3.38	19.75	54.24	7.18	0.81
昭和63年	3.48	21.04	56.72	7.93	0.76
平成5年	3.45	21.56	58.95	8.66	0.72
平成10年	3.41	22.01	59.43	9.55	0.68
平成15年	3.45	23.15	62.54	10.47	0.64
平成20年	3.38	23.24	62.51	10.92	0.63
平成15年～平成20年 増減数	△ 0.07	0.09	△ 0.03	0.45	△ 0.01

注1) 専用住宅とは、居住専用に建築された住宅を示す。店舗用住宅等を除く。

注2) 居住室とは居間や寝室など居住用の室を示す。玄関、台所、トイレ、浴室、廊下等を除く。

**図3 専用住宅の1住宅当たり延べ面積の上位及び下位5都道府県(平成20年)**

